

震災時に対応しよう！ 10のポイント

① 施設内の安全確保

- ・落下物に注意
- ・患者さん、スタッフ全員を安全な場所へ誘導
- ・治療途中の場合は、問題が起きないように対処➡ユニットのメインスイッチを切る

② 火元の確認

- ・ガスの元栓を締める
- ・火災の初期消火

③ 避難口の確保

- ・扉・窓が開かなくならないうちに、避難口を確保

④ 身の安全確保

- ・まずは机の下や、安全な場所に避難（声をかけ合う）
- ・ヘルメット等で頭を防護
- ・サンダルは、靴底がしっかりした靴に履き替える

⑤ 状況把握

- ・テレビ・ラジオ・携帯・パソコンなど、使用可能なツールを使って情報収集（参考：渋谷区防災アプリ、東京都防災アプリ、渋谷区防災ポータル）
- ・近隣で火の手が上がっていないか、確認➡火事が迫っていたら、即避難へ

⑥ 患者への対応

- ・状況に応じ、自院にて待機か、帰宅可能か、避難場所へ移動かを提案

⑦ 安否確認

- ・家族の安否確認
- ・スタッフやスタッフの家族安否確認

⑧ 被害状況の把握・情報提供

安全が確認された上で

- ・ユニット（給排水・コンプレッサー等）や機材設備の動作確認
 - ・扉・窓・天井等の破損、外壁や周囲の被害状況の確認（写真撮影）
- ➡歯科医師会へ「セコム安否確認システム」により連絡

⑨ 帰宅

- ・安全性を考慮し、医院に留まるか、一緒に避難か、帰宅か、を判断
- ・互いの連絡方法と、再集合の段取り、日時を確認

⑩ 避難

- ・退出時には電気のブレーカーを切り、水道の元栓を閉める
- ・移動した人の名前や避難場所、連絡先などを院外に掲示する